

ちば里山センター 冬の野鳥観察バスツアー

コハクチョウやカモ類を沢山観たい！！

高井昭夫（四街道市）

日 時：2010年1月30日（土） 8:30～16:10

場 所：橘ふれあい公園（香取市）東庄県民の森（東庄町）

協 力：千葉県自然観察指導員協議会

参加者：42名（内 スタッフ5名）

講 師：谷 英男（主担当者） 坂本文雄 和仁道大

香取市の橘ふれあい公園と県立東庄県民の森に、冬鳥のコハクチョウやカモ類の探鳥会をバスツアーで行いました。

8:35 千葉駅前をスタートし、車中で谷さんをはじめ3名の講師から、ハクチョウに関する話やクイズをしながら、9:55に橘ふれあい公園に到着しました。橘ふれあい公園は、ヤマユリの咲く里山として手入れされ、冬の今は、溜池にいろいろな水鳥が羽を休めており、心癒される雰囲気が感じられました。3班に分かれた参加者は、それぞれ里山を散策し溜池の水鳥を観察しましたが、水辺には、マガモ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ等が仲良くペアリングで泳いでおり、平和な自然風景を眺める思いでした。溜池に接する田んぼでは、農夫が耕耘機に乗って田起こしをしている後を、追いかけるようにアオサギが餌を探しており、それはなんとも微笑ましい光景でした。約45分間のウォッチングを終えて、一路東庄町の県民の森に向かいましたが、その途中、干潟八万石と称する田園地帯に寄り道し、車窓から田んぼの中で休んでいるハクチョウの群れを探しました。見渡す限り田んぼの中で、遠くに見えるサイロの横に、かすかにハクチョウの一群が観られ、期待通り発見が出来て一同安堵しました。

11:20 県立東庄県民の森に到着いたしました。班毎に公園内に入つて行きましたが、入り口近くの道端に、シロハラが餌に有り付こうとして、一心不乱に枯葉を嘴で飛ばしているところに遭遇し、3班全員固唾を呑んでその様子を眺めておりました。昼食をとる時間を含めて、約1時間40分をかけて、園内にある展望台、資料館、城山・つどいの森での散策を行いました。展望台では、先程観られた田んぼの白鳥の群れを望遠鏡で探しながら、江戸時代に干拓された干潟八万石の雄大な田園風景を一望し、先人の偉大さに頭が下がる思いになりました。資料館には、園内で見られる鳥達の剥製が飾られており、芝生の広場を歩き回るハクセキレイや、乙にすまして直立姿勢でいるツグミの姿は、なんとも滑稽に見えました。城山に登ると、ヤマガラがスギの枝で観られ、ツバキの林でトラツグミを観た人もいたようでした。福聚寺の門を入ると、ロウバイが香る中シナマンサクが満開に咲ており、境内は、はや春の気配でした。

13:00 いよいよお目当てのハクチョウを観るため、眼下の夏目の堰に降りました。夏目の堰は農業用の溜池であり、ハクチョウ、カルガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、オオバン、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ等の水鳥達が沢山いて、大変賑やかな風景でした。中でも、ハクチョウが何群にもなって、池に戻ってくる姿は壮観で、華麗な航空ショーを観ているようでした。また、名前からして愛くるしいミコアイサが水の中にもぐる様子は、シンクロナイズドスイミングを可愛いらしく演じているようでした。さて、ここにいるハクチョウは、人の餌付けによって2004年頃から飛来しているそうですが、それはオオハクチョウなのかコハクチョウなのか、その見極めはなかなか難しいらしく、大方はコハクチョウとの見方でした。溜池の付近の葦原にホオジロが飛び、湿地の池からカワセミが飛び出して歓声が上がり、遠く木のてっぺんでノスリが夏目の堰を睥睨している等、野鳥をこの上なく観察でき、贅沢三昧な一日となりました。

14:25 後ろ髪を引かれながら、帰途に着きました。皆心身ともに満足した、楽しい探鳥会が無事に終わりました。3名の講師の方々、スタッフの方々、大変ご苦労さまでした。